



## 平成 29 年度「よのなか教室」推進体制



## 小林市キャリア教育支援センター OPEN!

産業界と教育現場とが連携して地元産業の魅力を伝え、地域の将来を担う人材を育成することを目的に、「小林市キャリア教育支援センター」が開設された。日向市、延岡市に次いで 3 番目の設置となる。具体的には、商工会議所内にコーディネーターを配置して、市（市教委）と連携し、学校の要請に応じた社会人講師（よのなか先生）を市内の小・中・高校などに派遣して授業（よのなか教室）等を行う。社会で働くことの意義や小林の魅力を子どもや保護者に伝えることで、若者の地元企業への定着も目指している。

5 月 25 日、同会議所であった設置会見には、熊ノ迫文夫会頭、肥後正弘市長、中屋敷史生教育長、藤田英二コーディネーターが出席した。

### 熊ノ迫会頭

「小林の子どもたちに、小林で働く大人の多種多様な専門性について、しっかりと伝えていって欲しい。」

### 中屋敷教育長

「子どもたちの社会的・職業的自立や郷土への愛着が育まれ、小林の将来を担う人材として成長することに大きな期待をしている。」

### 肥後市長

「学校や地元企業が連携を取り、地元経済界を担う人材の育成に期待したい。」

### 藤田コーディネーター

「教育界に産業界の風を入れることで、小林の子どもたちや先生方のキャリアアップを図りたい。」



## 「教職員とよのなか先生との合同研修会」

5 月 22 日、日向市で教職員とよのなか先生との合同研修会（第 13 回）が開催された。

教育委員会説明や講話の他、第 6 回キャリア教育推進連携表彰【最優秀賞】受賞報告や昨年度の取組に対する表彰、新規登録者への任命証授与の後に、実際のよのなか教室の模擬授業 2 事例が行われた。

なお、この会には、延岡市と小林市のキャリア教育支援センター関係者や県外企業の方々等も参加しており、日向の先進的取組の広がりを感じることができた。



## 「宮崎県キャリア教育実践研究会」初開催！

5月19日、中山間地域における今後のキャリア教育の在り方等について情報交換や協議を行う研究会が、椎葉村で初開催された。西米良、諸塚、椎葉、美郷、高千穂、日之影、五ヶ瀬（計7町村）の教育関係者等約50名が参加し、各町村の特色ある取組について情報を共有したり、他県の取組から新たな発想を得たりしながら、将来を担う人財づくりや地域づくりなどについて協議を深めることができた。

### 各町村の発表より

高千穂小学校の田崎香織指導教諭は、「ふるさとを知り、ふるさとを学ぶ総合的な学習の時間『高千穂大好きプロジェクト』」について発表。

高千穂小学校では、高千穂中学校と連携し、目指す子ども像の共有を図りながら、キャリア教育の全体計画を作成し、系統的に総合的な学習の時間を実施していること、体験的な活動を中心としたキャリア教育を通して、子どもたちの学ぶ意欲を高め、学力の向上を目指すとともに、教師側としても授業の質的転換に取り組んでいることなどが紹介された。



### 県外の先進的な実践発表より

NPO法人ひとつむぎの大西浩正顧問と幹事の石原翔太さん（大阪大学）は、大学生が主体となって高校がない徳島県牟岐町で実施している小中校生向けの人材育成活動『シラタマ学級』、『ローカルハイスクール』について発表。

『シラタマ学級』では、小中学生が自ら町のイベントを企画し、その運営におけるプロセスを支援していること、『ローカルハイスクール』では、高校生を対象に月に1回程度の相談を受ける場や、長期休暇中のサマーキャンプを行い、高校生が進路選択などを幅広い視野で主体的に行えるような支援を行っていることなどが紹介された。



### パネルディスカッションより

県キャリア教育支援センターの水永正憲トータルコーディネーターや『花ふぶき一座』座長の宮田若奈さんなど6名が意見交換を行った。

「学校における『ふるさと学習』の充実により、中山間地で生活する小学生のほとんどが、ふるさとを愛しているのだが、中学生になったら、地域の良いところだけでなく地域の課題と向き合わせることも大切ではないか。」「義務教育の段階で多様な価値観、考えを持つ大人とたくさん触れあうことが大切である。」といった意見が印象的であった。



### 宮崎大学教育学部 吉村功太郎教授の総括コメントより

地域社会と密接に連携した体験活動を伴うキャリア教育を通じて、**社会の一員としての意識（社会的存在感、社会的有用感、社会的有能感）の醸成を図り、社会の担い手としての意識（社会とどう関わり、自分をどう生かし、自分はどう生きる）【生き方・考え方】をしっかりと育んでいくことが重要**である。

